

**釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会**  
**再生普及行動計画ワーキンググループ(第21回) 議事要旨**

日時：平成23年10月26日(水) 18:00～20:02

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第一会議室

**【出席者(敬称略)】**

**再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー**

＜個人(所属)＞

- ・ 清水信彦 (個人)
- ・ 新庄久志 (釧路国際ウェットランドセンター主任技術員、環境ファシリテーター)

＜団体(出席者)＞

- ・ 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 (鈴木久枝)
- ・ 釧路市民活動センターわっと (成ヶ澤茂)
- ・ 釧路武佐の森の会 (大西英一)
- ・ こどもエコクラブくしろ (近藤一燈美)

＜再生普及小委員会(出席者)＞

- ・ 高橋忠一(個人)

＜関係市町村(出席者)＞

- ・ 標茶町 (企画財政課/中島吾朗)

＜関係行政機関(出席者)＞

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 (所長/野口明史)
- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 (上席治水専門官/花巻雅人)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター (所長/宮本元宗)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター  
(自然再生指導官/朝倉基博)
- ・ 北海道教育庁釧路教育局 (会田大祐)

＜オブザーバー(出席者)＞

- ・ 釧路総合振興局釧路建設管理部治水課 (係長/村井幸一)

**再生普及行動計画ワーキンググループ事務局**

- ・ 環境省北海道地方環境事務所 国立公園・保全整備課課長補佐(高見沢敏男)
- ・ 釧路湿原自然保護官(竹中康進)
- ・ 財団法人北海道環境財団 (久保田学、清水美希)

**【議事概要】**

〈事務局〉第21回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WG」と表記)を開催する。  
配布資料確認後、本日のオブザーバー釧路総合振興局釧路建設管理部治水課村井係長の紹介。進行を新庄座長へお願いする。

**議事1 2011年度再生普及行動計画WGの取組進捗状況**

〈事務局〉(資料1-1に沿って説明)再生普及行動計画WGは普及小委員会下に設置されており、再生普及行動計画の検討や実施をするためのワーキンググループである。前回の行動計画

WGの検討をふまえ情報発信の拡充に向け、パネル展や自然再生現場見学会、学習会などを頻繁に活動してきた。(資料1-2に沿って説明) 下線部は今年度からの新しい取組み。ワンダグリンダプロジェクト登録証で参加への意識もってもらうこと、ワンダグリンダプロジェクトの宣伝してもらうことでお渡ししている。ワンダグリンダプロジェクトの特権カヌーツアーは応募で伊勢さんが当選し新庄さんとのプライベートカヌーツアーを体験した。ワンダグリンダプロジェクト応募のメリットとなっている。

(資料1-3に沿って説明) 目的は釧路湿原自然再生事業の知名度の調査、アンケートを通じた自然再生事業のPR。今年は253件。地元、地元外、自然に関心がある人とそれぞれのねらいごとの3箇所としている。結果的には「自然再生事業を聞いたことがある」が44%と昨年度よりは少なくなっているが、流域の5市町村では78%と上昇し、母体数は少ないが地元では普及啓発などで自然再生が認識されてきているのではと思われる。

(資料1-2に沿って説明) 第2期再生普及行動計画概要版の英語版1,000作成した。ワンダグリンダプロジェクトのPRのため名刺用のシールを作成した。本日持参しているので今後も使って欲しい。主催のパネル展の準備等では行動計画WGメンバーのご協力いただき、お礼を申しあげる。遊学館では航空写真のすごろく、ヨシ工作(北斗遺跡協力)で湿原をPRした。空港では非常に好評で、冬にもやって欲しいとの話もでた。イオンでは地元の方を中心に釧路湿原に関心をもってもらった。参加イベントでは地元を知ってもらうために昨年(2010年)の標茶町に続き今年度は鶴居村のふるさとまつりに参加。ワンダグリンダプロジェクトの応募者が子ども達に指導、湿原の関心をもってもらった。学習会では地元の小中学校に出向き釧路湿原について話し関心をもって聞いてもらった。今後はまなトピアや釧路西郵便局でも考えている。またご協力をお願いしたい。昨年度の森林再生事業の情報発信に続いて茅沼地区の旧川復元事業をとりあげて、ウェブページを作り紹介していく予定。今年度から地元の方に自然再生事業を知ってもらおうと自然再生現場の見学会を実施した。達古武地区ではキャンプ場を対象に朝の散歩として森林再生の現場をみてもらい好評だった。今後はキャンプ場と連携し、キャンプ場のアクティビティのひとつになっていければと考える。幌呂地区では湿原再生の現場をみてもらい、ハンノキ調査等を行った。鶴居村の現場近く(下幌呂地区)の住民が参加し好評だった。森林小委員会、湿原小委員会と普及小委員会との連携で行い横のつながりもできた。今後も続けていきたい。フィールドワークショップは釧路湿原をより知ってもらうこと、またワンダグリンダプロジェクトへの応募者の特権ということで行っている。第7回はキラコタン岬周辺の湧き水と青沼周辺のエゾシカの影響をみた。次回は2月7日(平日)で「冬のコッタロ湿原を歩く」を予定。ぜひご参加ください。

## 議事2 「ワンダグリンダ・プロジェクト2011」中間報告

## 議事3 「ワンダグリンダ・プロジェクト2012」募集案内

〈事務局〉(資料2-1、資料2-2に沿って説明) 今年度は6月の再生普及小委員会での承認を得て、ワンダグリンダ・プロジェクト2011がスタートした。そこから8団体、9取組みが加わり現在は47団体、75取組みとなっている。新規応募者はカヌー事業者、タンチョウコミュニティ、ペーパークラフト、子ども達の環境保全団体である。昨年と同じ時期と取組み数は変わらないが、団体数は少し増えている。今後、取組みを取りまとめ、

ワンダグリнда・プロジェクト 2011 の報告書として発表する。

(資料 2-3 を説明) 平成 24 年 2 月 13 日～3 月 12 日を集中募集期間として PR しワンダグリнда・プロジェクト 2012 の募集を開始する。チラシには登録証発行などの特権を載せこみながら PR していく。2011 年度版のチラシ等をお渡ししているので 2012 年度版によいご意見があればお聞かせ願いたい。(意見等、特になし)

#### 議事 4 自然再生に参加する・行動するについて (検討)

〈事務局〉 (資料 4 に沿って説明) 行動計画 WG では皆さんで議論していただきたい。今回は恒例のワークショップ形式として、第 2 期行動計画の 3 つの柱の一つであり、今期特に重点的に進める「自然再生に参加する・行動する」について検討いただきたい。今行われていたり、行われようとしている 3 つ自然再生事業の取組みをピックアップし、各担当者から (幌呂地区湿原再生事業、久著呂川土砂流入対策事業、雷別地区森林再生事業) ご紹介いただき、検討してみたい事業について、それぞれで市民参加できる具体的なものをディスカッションし、発表していただきたい。その結果は、各小委員会または再生普及小委員会で反映させていければと考える。

〈幌呂地区湿原再生事業〉 (スクリーンと配付資料により事業の概要を説明)

〈委員〉 現在はまだ事業前で実施計画を作成中。昭和 22 年の写真と平成 7 年の写真を比較する。土地の開発により地下水が下がり、冠水頻度も減った。その結果、湿原面積が減少し、植生 (ヨシが減りハンノキが増えた) や、湿原本来の景観が変化した。当地区の事業は、元々農地として開発したところを再生しようとするもの。近くで営農しているので水位を上げることはできず、地盤を掘り下げて地下水を近づけることを予定。外来種のオオアワダチソウが入っているところは深く掘り下げる予定。現在地下水は、地下 20～60cm で冠水頻度は少ない。これを事業により地下水位を 20cm 程度とし、冠水頻度を増やす。これによりヨシ植生を優勢にし、ホザキシモツケ等が生えることを期待している。事業実施による効果をモニタリングすることを当初から計画しており、地下水位、植生調査、ハンノキの成育状況、景観等を調査していく。議事 1 の報告にもあったが、10/16 に住民参加でハンノキ調査を実施した。こうしたことを続けていきたい。

〈久著呂川土砂流入対策事業〉 (配付資料、パンフレットにより事業の概要を説明)

〈オブザーバー〉 河川から土砂が流入することが湿原が縮小する原因のひとつと全体構想で位置付けられ、特に流入が著しい久著呂川で現在対策を行っている。湿原周辺の開発による流入土砂は右肩上がりに増えており、その流入量を人が手を入れる前の状況に戻そうとしている土砂流入小委員会では 6 つの対策を考えている。

- ① 湿原流入部土砂調整池：川の砂を湿原の入り口でキャッチする。
- ② 河川沿いの土砂調整池：大きめの土砂を川幅を広げて勢いを落として途中で堆積させる。
- ③ 森林再生などによる土砂生産の抑制：裸地を無くす。
- ④ 水辺林・緩衝帯：ダイレクトに川に土が入らないよう、川の回りに木や草を生えさせる。

- ⑤ 排水路合流部沈砂池：農地から直接川に水が入り込まないように、川の手前でワンクッション沈砂池を設ける。
- ⑥ 河道の安定化対策：久著呂川も直線化により流れが速くなり、浸食が上流に伸びている。これを止めるために、上流部の浸食による高低差5mの段差に落差工を設置し、床止め工や川幅拡大による流速低下により低下した河床を復活させようとしている。帯工を施工し、河床低下を防止している。堆積があり効果を感じている。（配付資料写真参照）川の縦断面図（配付資料末頁）に見るように、平成15年からかなり河床が低下し、未だに下がってはいるが、平成22年の赤色線に見るように帯工設置箇所については若干上がってきている。

〈雷別地区森林再生事業〉（配付資料、パンフレットにより事業概要を説明）

〈委員〉 シラルトロ沼上流の国有林を対象に実施している。70年を超えるトドマツ林だったが気象害でかなりの面積の森林が枯れた。これを広葉樹林に再生しようとしている。雷別どんぐり倶楽部は平成18年から自然再生の学習会としてスタートしたが、その後会員化し、現在33名（当初11名）が参加している。今年度は、5月25日に広葉樹のタネを発泡スチロールの苗床にまいた。6月19日に第1回森林アクティビティ講座を開講（参加15～16人）し、シードトラップでタネを採取し、午後からは野草の観察会を開いた。午前中は作業、午後は楽しみを持てるようにしている。7月13日にはどんぐり倶楽部の第2回活動を開き、平成15年に植えた木のシカ害対策のヘキサチューブの撤去作業を実施。9月14日には第3回どんぐり倶楽部の活動を開催し、市民が庭で育てた（3年）広葉樹の苗約300本を植え付けた。あわせてシカの害も増えたので新たにヘキサチューブ50本を設置した。それ以外にもボランティアの植樹を3回実施しており、最近では9月25日に200本の苗木を植えた。10月2日にも釧路市内の「生涯学習」をテーマに活動しているグループとともに200本の苗木を植えている。

〈座長〉 3つの再生の取組を紹介した。ここから、それぞれの報告に基づき、市民が参加するとしたら、それぞれの事業でどんな参加の仕方があるか、テーブル毎に議論していただきたい。

〈検討30分〉

3つのテーブルを幌呂地区、久著呂川地区、雷別地区の事業に分け、テーブル毎にアイデア出しの作業を実施。

〈検討発表（各チーム約5分）〉

3グループの検討状況をシェア。

〈幌呂地区湿原再生事業〉

〈委員〉 地元の人が参加する定期的なモニタリング、農業排水路の水深を測りながら現地を歩く、農家の歴史の話を聞く機会を持つ、一定の区域を（近くの学校）教育用に提供しては、地盤を掘り下げた後にヨシを植える活動をしてはどうか、湿原学習のサポートによる地域連携、ハンノキの調査に地元の学校を巻き込む、3～4年生の地域学習に事業地を活用

してはどうか、ハンノキの年輪確認、在来種と外来種の学習・駆除などの提案があった。

〈座長〉 地元・こどもの学習と組み合わせでは、というご提案。

〈久著呂川土砂流入対策事業〉

〈委員〉 まず土砂の流入への参加機会が難しい。久著呂川自体があまり知られていない。釧路湿原を守る河川改修の目的をまず理解してもらいたい。参加・行動するでは、こどもが参加するとしたら川幅が広がって浅瀬ができたところで川の堆積状況を観察・体験・学習、釣り大会(アキアジ)や魚の調査をとおして川に触れてもらうこと、橋の上から四季折々の様子を定点観察・写真、帯工の上流と下流の土砂や水の違いをみてる、川の上流からGPSを流して流速や到達点等の動きをみてること、などの提案がだされた。今すぐ参加・行動することは難しいかも知れないが、長いスパンで考えてみよう。

〈座長〉 久著呂川のいろいろな様子を観察するプログラムのご提案。

〈雷別地区森林再生事業〉

〈委員〉 湿原に接しておらず上流であり場所がわからないという話がでた。シカをとって食べることで、キノコの会と協力して山菜とセットで森林の良さを感じてもらい、樹木医を呼んで木のことを学び認定すること、職業訓練としての植え込み体験などを組み合わせたイベント、クマゲラをもっとPRして野鳥の会と協力した鳥の声や姿を活動に取り込んでいくこと、こども対象の昆虫の観察会、夏休みのこどものサバイバルキャンプ、自然樹からの植樹等のアイデアがあった。興味を持たせることと組み合わせることが大事。

〈座長〉 樹林と食と関係させるプログラム、野鳥や昆虫を観察するプログラム、(再生しようとする)木を診断、体験する、キャンプなどのご提案。

〈座長〉 結果は整理し、各小委員会にフィードバックする。今後については普及小委員会とそれぞれの小委員会のプログラムとの連携を考え、モニタリングしていきたい。今日は行動計画の3つの柱の2つ目の「自然再生に参加する・行動する」を議論した。次回は3つめ「地域と関わり、人をつなぐ」をやってみたい。

## その他

〈事務局〉 ○(資料5に沿って説明)今後のスケジュールとしては、今回のワーキンググループの結果を再生普及小委員会、釧路湿原自然再生協議会へ報告する。来年2月からはワンダグリンダ・プロジェクト2012の応募がはじまり、次回ワーキンググループ開催は4月中旬を予定。

○釧路湿原自然再生事業の紹介パネルの貸し出しの依頼もあり、ルール化して貸し出しを始めていきたい。

○(資料:湿原保全と観光の連携にむけて)報告事項として、釧路湿原自然再生協議会中村会長から地域の産業と自然再生の連携について提案があり、例えばとして産業を紹介できるMAPを検討。まずは鶴居村と協力しながら、釧路湿原の保全と観光との連携を検討している。次回の再生普及小委員会で議題としたい。

〈座長〉 現在の再生事業の市民参加のモニタリングでは茅沼地区の旧川復元事業が土砂堆積のモニタリングとして先行しているが、幌呂地区の湿原再生事業が動き出すとハンノキ調査のモニタリングも動き出す。久著呂川の土砂流入対策事業や雷別地区の森林再生事業も

是非市民参加のモニタリングプログラムを作って議論を深めていただきたい。

〈委員〉 夏場に高齢の長期滞在者が釧路にたくさん来ている。そうした高齢者向けツアーも是非やるとよい。

#### 閉会

〈事務局〉 これで第21回再生普及行動計画ワーキンググループを終了する。

#### 議事4

### 「自然再生に参加する、行動する」検討結果

#### 幌呂地区：湿原再生事業

- ・地元の人が参加する定期的なモニタリング
- ・夏に1号支線排水路の方へ水路の深さを調べながら行く
- ・自然再生事業地に接している農家の歴史を含めたお話を聞く
- ・①一定の区画を教育用に用意する
- ・②けずった箇所によシをみんなで植えて、再生活動の概要を体験するプログラム
- ・周辺の小学校での湿原をテーマとする授業の実施と実質的なサポート
- ・ハンノキ調査に地元小学生をまきこむこと(学校ごと)
- ・地域学習(3,4年生)鶴居村の学習に活用
- ・ハンノキ林の植生を理解するため、切って、見て、年輪の確認等を行う
- ・事業区域内の一部を利用してヨシの植樹を地域と連携して行う
- ・在来種と外来種の学習→外来種をとり除く

#### 久著呂地区：土砂流入対策事業

- ・帯工の上下流で水の汚れの違いを見る
- ・橋からの定点写真
- ・浅くなったら子ども達にもみてもらう
- ・魚の種類調べ(魚道)
- ・つり大会
- ・もっと久著呂川を知ってもらう
- ・何か流して久著呂川の流れの速さを見る(速さの違い)

#### 雷別地区：森林再生事業

- ・キノコの会と協力
- ・山菜取りとセットにする
- ・樹木医(博士)の認定
- ・職業訓練での植え込み体験
- ・クマガラをもっとPR
- ・野鳥の会と協力
- ・昆虫の観察会
- ・シカをとる。シカを食べる
- ・場所がよくわからない
- ・対象を誰にするのか
- ・子どもの募集をもっとすすめる
- ・夏は小学生を集めて一週間サバイバル
- ・興味をもたせることを組み合わせる